

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520196

研究課題名(和文) 耳鳥齋の戯画と近代漫画の比較研究 - アニメーションの源流としての江戸時代の戯画 -

研究課題名(英文) The Comparative Study of Nicyosai's Giga(Caricature) and Modern Manga(Caricature), The Giga(Caricature) in Edo Period as Origin of Animation.

研究代表者

中谷 伸生 (NAKATANI, Nobuo)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：90247891

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)： 耳鳥齋は、肉筆の戯画や版本の出版で本領を發揮したが、戯作や茶利浄瑠璃にも手を染めた趣味人である。もともとは酒造業を営む資産家であったが、その後に骨董商に転業した。耳鳥齋の戯画を近代漫画の源流だと言ってよいかは難しいが、一コマ漫画や、見開き4から6頁での1図の独創的な構成、また漫画の吹き出しを用いたような場面は、近代漫画の原点を仄めかす。本研究は耳鳥齋の戯画と近代漫画との比較研究を遂行することによって、重要な結論を得た。

研究成果の概要(英文)： Nicyosai's genius was best displayed in his giga paintings and woodblocks, but he also tried his hand at writing light literature and comic puppet plays. Originally, he was a wealthy sake brewer, but later turned to the antiques business. It is difficult to say whether Nicyosai's giga was the origin of modern manga. A connection is certainly suggested, however, in the single frame cartoons, the novel compositions that spread across 4 to 6 pages, and the use of speech balloons. This study has come to an important conclusion by comparative studies with Nicyosai's giga and modern manga.

研究分野：日本美術史

キーワード：耳鳥齋 漫画 戯画 諷刺画 江戸時代

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 明治時代以来、長らく忘れられてきた江戸時代の戯画作者の耳鳥齋の調査研究は重要である。というのも、耳鳥齋の研究はほとんど進んでおらず、近代・現代の漫画やアニメーションの源流として耳鳥齋らの江戸時代の戯画が存在したと考えられるからである。

しかも、近年、耳鳥齋らの江戸時代の戯画は、いわゆる漫画・アニメーションなどのクールジャパンの一環としてイギリスをはじめとする欧米諸国や東アジア諸国でも注目されつつあり、国際的にも脚光を浴びてきた。耳鳥齋らの江戸時代の戯画を研究する価値は高い。

(2) 耳鳥齋の戯画作品資料を収集して、それらを買く特質が、近代・現代の漫画・アニメーションとどのように関係するのかを探求することは、クールジャパンと言われる現代の漫画などが誕生した理由やその土壌を明らかにすることができるため、大きな意義がある。

この問題の解明は非常に難しいが、それだけに、やりがいのある研究課題だといってよい。耳鳥齋の肉筆画や版本、そして文献資料は各地の美術館や図書館などに散逸しており、それらを整理してデータ化することが重要である。

## 2. 研究の目的

(1) 耳鳥齋の調査研究を通じて、近代(現代)の漫画・アニメーションの源流に、江戸時代の戯画、とりわけ大坂の耳鳥齋の戯画が位置づけられるかどうか、を解明することを目的とした。両者には連続(継承)する部分と、非連続(継承していない)の部分とが認められるが、いずれにしても、近代(現代)の漫画・アニメーションの源流を明らかにすることは、きわめて重要な研究目的である。そのための作品資料のデータ化を進めることは、決定的に大きな意味をもつ。

(2) 「源流」という概念が、具体的にいかなる内容を示しているのかを具体的に明らかにすることを目的にした。研究結果としては、明確に「源流」と主張はできないが、少なくとも、近代・現代の漫画・アニメーションが誕生する土壌を形成していたことは明白となった。大きな成果だと自負している。

## 3. 研究の方法

(1) これまで忘れられていた耳鳥齋の戯画を、大阪・京都・東京を中心に調査研究を進め、新作品や新資料を発掘して本邦初のデータ化を行い、中谷伸生著『耳鳥齋アーカイヴズ』(関西大学出版部)として2015年3月に刊行する予定で研究を続ける。

(2) 大阪・京都・東京を中心にした調査であったが、熊本・福岡、京都・広島、愛知な

ど、全国各地を調査して廻り、データ化を進めた。データ化に際しては、耳鳥齋の真贋の判定が必須であるが、真贋については、別立ての論文を執筆した。また、その内容を単著にまとめて出版した。

(3) 近代漫画の中から岡本一平や宮武外骨の漫画を調査して、両者の繋がりを明らかにした。その際、耳鳥齋の版本『絵本水や空』の復刻を行った近代漫画家の代表者の岡本一平を中心に調査を進めた。

今回はそれに加えて、耳鳥齋の版本『かつらかさね』・『歳時滅法戒』・『書本古鳥圖賀比』の内容をオールカラーで翻刻して紹介し、その全容を紹介した。この研究によって、江戸時代後期の戯画の版本と、明治時代以降の版本との連続性と断絶が明らかになった。

(4) 近代の漫画や現代のアニメーションの主たるものを調査研究し、江戸時代の戯画との比較研究をめぐる基礎研究を行った。この研究によって、江戸時代の戯画の展開と現代のアニメーションの成立について一定の理解が深まった。

## 4. 研究成果

(1) 耳鳥齋の戯画について、未紹介の戯画を中心に数多く調査発掘し、平成27年(2015年)3月に、単著『耳鳥齋アーカイヴズ』(関西大学出版・総207頁)を出版して、現在、集めることのできる限りの耳鳥齋作品の写真資料を収録した。計300枚を越える作品写真をすべてカラーで紹介し、新発見の作品9点を紹介した。また、すべての掲載作品に作品解説を付すとともに、真贋判定の記号を付けて、全体を見通す研究論文4篇を収録し、巻末に網羅的な耳鳥齋文献目録をまとめた。とりわけ、第4章の論文「耳鳥齋の版本挿絵における作風展開」は、肉筆画と版本との両領域を跨ぐ成果であって、日本美術史や日本戯画史のみならず、国文学研究の領域にとっても意味のある成果だといってよい。

この書籍はこれまでなされてこなかった耳鳥齋研究を始めて本格的に世に出したカタログ集成および論考・資料集で、耳鳥齋と大坂の戯画についての今後の研究の基礎となる独創的な内容であるとともに、近代・現代のマンガ・アニメーションの源流について解明することを可能にする初めての貴重な研究・資料である。耳鳥齋研究にとっても、日本の戯画史にとっても、そして、それはとりまなおさず、近代・現代の漫画・アニメーションの誕生をめぐる諸問題にひとつの回答を与えるものでもある。

(2) 耳鳥齋の調査研究を各種の学術雑誌などで紹介し、広く社会に情報を提供した。たとえば、関西大学アジア文化研究センター研究例会で「耳鳥齋アーカイヴズ」と題する研究発表を行い、耳鳥齋のアーカイヴズ

化(データ化)の問題に言及し、その位置づけを解説した。

また、今回の調査研究で発掘した《世態聯画》の位置づけを行い、耳鳥齋が出版した『畫本古鳥圖賀比』と比較検討した。その成果を『関西大学博物館紀要』第21号(2015年3月)に論文「《世態聯画》(画卷)の位置づけと『畫本古鳥圖賀比』(版本) - 耳鳥齋の肉筆画と版本をめぐる問題点 - 」と題して掲載した。これらの学術論文は、他にほとんど例のない内容であるため、貴重な成果であると考えられる。

- (3) 贋作が多い耳鳥齋の作品群を、徹底的に調査研究し、微妙な真贋の判定を著書『耳鳥齋アーカイヴズ』(関西大学出版)において記号を付して掲載し、今後の研究に役立つようにデータ化した。いわゆる作品のカタログ・レゾネの作成である。この資料集成は、日本の戯画史研究において、画期的な成果であると自負している。

- (4) 江戸時代における耳鳥齋の戯画と近代・現代の漫画・アニメーションとの関係についての関心は、近年、欧米や中国・韓国・東南アジア諸国を中心に世界中で高まりつつある。なぜ、日本社会は優れたマンガ・アニメーションを生み出したのか、という問いであるが、それが日本のマンガ・アニメーションの源流を解明する研究の重要な課題であった。

その意味では、本研究が、耳鳥齋と江戸時代の戯画と、近代・現代の漫画・アニメーションの繋がり的一端を明らかにしたことは、国内外にインパクトのある情報を伝えたことになる。日本文化の海外発信という意味でも価値あるものと考えている。世界的に盛り上がっている日本のクールジャパンの解明にも大いに役立つことは間違いない。

- (5) 耳鳥齋と近代・現代の漫画・アニメーションの源流の探求に特化して行った本研究の成果は、すなわち、現代日本のマンガ・アニメーションの成立について示唆に富む成果を上げたわけで、このことは、近代・現代の漫画・アニメーションの特質についても独創的な成果をあげたことになる。

- (6) 明治時代に耳鳥齋の版本『かつらかさね』を『歳時滅法戒』と改題して出版した宮武外骨や耳鳥齋の本『繪本水や空』を復刻出版した岡本一平など、近代・現代の漫画家たちが、耳鳥齋や江戸時代の戯画から継承したものは何か、という問題は重要であり、今回の研究でその一端を解明したことは独創的成果だと考えられる。

- (7) 本研究を社会に還元するため、全国誌の新聞に紹介文を執筆して掲載した。「ハイカラ大坂画壇・江戸時代のクールジャパン」、『産経新聞』(夕刊) 2013年10月5日を手始めに、耳鳥齋と関連する大坂画壇の画家たちを紹介した。

## 5. 主な発表論文等

(雑誌論文)(計15件)

中谷伸生「日本近代洋画と文化交渉学 - 鹿子木、萬、前田、サロン・ド・メ」、『東アジア文化交渉研究』、第8号、関西大学東アジア文化研究科、査読有、2015年3月、35~56頁。

中谷伸生「《世態聯画》(画卷)の位置づけと『畫本古鳥圖賀比』(版本) - 耳鳥齋の肉筆画と版本をめぐる問題点 - 」、『関西大学博物館紀要』、第21号、関西大学博物館、査読無、2015年3月、24~57頁。

中谷伸生「陳進と一九三〇年前後における日本画(膠彩画)」、『南島史学』、第82号、南島史学会、査読有、2014年12月、37~48頁。

中谷伸生「美術交渉としての日本美術史と東アジア」、『東西学術研究所紀要』、第47輯、関西大学東西学術研究所、査読無、2014年4月、1~13頁。

中谷伸生「岡倉天心による近世絵画の評価 - 大坂画壇に言及して - 」、『LOTUS』第34号、日本フェノロサ学会、査読有、2014年3月、17~33頁。

中谷伸生「蘭亭曲水図 - 狩野山雪から浦上春琴へ - 」、『東アジア文化交渉研究』、第7号、東アジア文化研究科、査読有、2014年3月、37~51頁。

中谷伸生「浦上春琴による文化五年の《蘭亭図》」、『関西大学博物館紀要』、第20号、関西大学博物館、査読無、2014年3月、54~79頁。

中谷伸生「菅楯彦の魅力とその評価 - マンガ・アニメーションと東アジアの文化的伝統 - 」、『菅楯彦展 - 浪速の粋・雅人の心 - 』、鳥取県立博物館、査読無、2014年2月22日、1~5頁。

中谷伸生「文化交渉学としての美術史学 - 大坂画壇から東アジア美術史の構想へ - 」、『関西大学東西学術研究所研究報告書』、査読無、2013年12月、1~19頁。

中谷伸生「捻じれ歪んだ日本の文人画研究 - 『大成者』の大雅・蕪村から竹田・半江へ - 」、『美術フォーラム21』、第28号、査読有、2013年11月、95~103頁。

中谷伸生「アジアにおける大阪とその文化」、『大阪商業大学商業史博物館紀要』、大阪商業大学、査読無、2013年11月、136~143頁。

中谷伸生「扇面画の美術交渉 - 日本・中国からフランスへ - 」、『東西学術研究所紀要』、第46輯、関西大学東西学術研究所、査読無、2013年4月、51~71頁。

中谷伸生「耳鳥齋の戯画と東アジアの美術交渉」、『東アジア文化交渉研究』、第2号、関西大学東アジア文化研究科、査読有、2013年3月、2013年3月、27~41頁。

中谷伸生「宇田荻邨における西洋志向と日本回帰 - 大正・昭和の写生帖をめぐる

- 』、『関西大学文学論集』、第 62 巻 3 号、関西大学文学部、査読無、2012 年 12 月、37～55 頁。

中谷伸生「近世近代の日本絵画における美術交渉」、『東西学術研究所紀要』、第 45 輯、関西大学東西学術研究所、査読無、2012 年 4 月、査読無、2012 年 4 月、1～20 頁。

〔学会発表〕(計 26 件)

中谷伸生「京都の狩野派絵画と東アジアの絵画」、『国立台湾大学日本研究中心および文学研究科および関西大学東西学術研究所による研究生連合発表会、国立台湾大学(中華民国)、2015 年 3 月 27 日

中谷伸生「岡田半江筆《山水図巻(大川納涼図)》、なにわ大阪研究プロジェクト研究会、関西大学社会学部 Step、2015 年 3 月 6 日

中谷伸生「日本の現代美術と伝統 - 淀川図巻からミニマルアートまで - 』、韓国慶尚大学セミナー(韓日文化産業高級人材養成課程講義)、関西大学以文館、2015 年 2 月 9 日

中谷伸生「大坂の戯画作者・耳鳥齋アーカイヴズ」、『関西大学アジア文化研究センター研究例会、関西大学以文館、2015 年 1 月 30 日

中谷伸生「鍋木清方と 1930 年代の日本画と陳進」、『2014 年海洋文化国際学術研究会暨海峡兩岸東亞沿海地区與島嶼文化学術研討会、国立台湾海洋大学海洋文化研究所(中華民国)、2014 年 11 月 23 日

中谷伸生「奇想の画家はもう飽きた - 浪花の町絵師・菅楯彦の世界 - 』シンポジウム総合司会、大阪商業大学ユニバーシティホール蒼天、2014 年 11 月 15 日

中谷伸生「花鳥画の展開 - 室町時代から江戸時代へ - 』、シンポジウム花鳥画の世界、相国寺丞天閣美術館(京都府)、2014 年 11 月 9 日

中谷伸生「復古大和絵と菅楯彦」、『大阪商業大学連続講義浪花慕情 - 菅楯彦とその世界 - 』、大阪商業大学 GATEWAY レクチャールーム、2014 年 11 月 8 日

中谷伸生「鍋木清方與 1930 年前後の台湾膠彩画」、『海洋文化国際学術研討会、国立台湾海洋大学(中華民国)、2014 年 10 月 23 日

中谷伸生「マンガ・アニメーションと菅楯彦 - 東アジアの文化的伝統と現代 - 』、嶺南大学国際シンポジウム、嶺南大学(大韓民国)、2014 年 8 月 26 日

中谷伸生「淀川今昔明日ものがたり - 大岡春卜絵巻の世界から未来へ - 』、グランフロント大阪北館ナレッジキャピタル(大阪府)、2014 年 5 月 25 日

中谷伸生「浪花及淀川沿岸名勝図巻」(『関西テレビ淀川今昔明日ものがたり講演』、関西テレビ扇町スクエア(大阪府)、2014 年 2 月 23 日

中谷伸生「岡田半江の文人画における日中 - 山水図巻(大川納涼図)をめぐって - 』

(大正癸丑の京都蘭亭会を成功に導いた人達講演会)、大阪市立生涯学習センター(大阪府)、2013 年 12 月 22 日

中谷伸生「鉄斎の妙心寺聖澤院障壁画《巖栖谷飲図》を見る」(『聖光文庫講座』、宝塚市立中央図書館(兵庫県)、2013 年 12 月 8 日

中谷伸生「荒川修作 + マドリン・ギンズが捨てようとしたもの」、『東西学術研究所第 2 回特別講演会・天命反転東西の身体観を超えて - 荒川修作 + マドリン・ギンズと現代の建築・芸術・思想 - 』、関西大学以文館、2013 年 11 月 22 日

中谷伸生「十八世紀における大坂の絵画と沈南蘋」(『中日文化学術研討会』、中山大學華南日本研究所および広州美術学院中国画学院(中華人民共和国)、2013 年 9 月 27 日

中谷伸生「大坂画壇と岡倉天心 - 東アジア美術史の構想 - 』(『広東社会科学院研究発表会』、広東社会科学院・広東海洋史研究中心(中華人民共和国)、2013 年 9 月 26 日

中谷伸生「大坂画壇はなぜ忘れられたのか - フェノロサ・天心から東アジア美術史の構想へ - 』(『日本フェノロサ学会第 34 回年次大会』、大阪大学中之島センター(大阪府)、2013 年 9 月 21 日

中谷伸生「大坂画壇座談会」(『吹田市立博物館文化講座』、吹田市立博物館(大阪府)、2013 年 6 月 23 日

中谷伸生「大坂画壇の現状と展望」(『旧植田家住宅美術講座』、安中新田会所跡・旧植田家住宅(大阪府)、2013 年 6 月 15 日

⑲ 中谷伸生「大坂画壇の再評価とその展望」(『大阪くらしの今昔館美術講座』、大阪くらしの今昔館(大阪府)、2013 年 5 月 3 日

⑳ 中谷伸生「耳鳥齋アーカイヴズ」(『アジア文化研究センター第 2 回研究集会、アーカイヴズと知の再構築』、関西大学以文館、2012 年 11 月 22 日

㉑ 中谷伸生「美術作品とアーカイヴズ化 - 美術史研究を踏まえて - 』(『嶺南大学国際シンポジウム』、嶺南大学(大韓民国)、2012 年 11 月 3 日

㉒ 中谷伸生「アジアの中の大坂」(『シンポジウム商都大阪の文化力』、大阪商業大学、2012 年 10 月 20 日

㉓ 中谷伸生「扇面画の東西文化交渉 - 日本、中国からヨーロッパへ」(『東西学術研究所研究例会』、関西大学児島惟謙館、2012 年 10 月 17 日

㉔ 中谷伸生「美術作品と市民意識」(『大阪府教員研修講座』、関西大学第一学舎、2012 年 8 月 7 日

〔図書〕(計 3 件)

中谷伸生『耳鳥齋アーカイヴズ - 江戸時代における大坂の戯画 - 』、関西大学出版、2015 年 3 月、総 209 頁。

中谷伸生(共著)『泊園書院と大正蘭亭会百周年』、関西大学出版、2015 年 3 月、総 380 頁の中の 285 - 292 頁。

中谷伸生(共著)『東亜坐標中的跨国人物研究』、中国書籍文庫、2013年3月、総345頁の中の103-116頁。

〔新聞原稿〕(計6件)

中谷伸生「ハイカラ大坂画壇・泥に咲いたデカダン美人」、『産経新聞』(夕刊) 2014年6月5日

中谷伸生「ハイカラ大坂画壇・笑う木村蒹葭堂」、『産経新聞』(夕刊) 2014年4月3日

中谷伸生「ハイカラ大坂画壇・『儲かる』だじゃれで人気」、『産経新聞』(夕刊) 2014年2月6日

中谷伸生「ハイカラ大坂画壇・淀川沿岸の名勝絵巻」、『産経新聞』(夕刊) 2013年12月5日

中谷伸生「ハイカラ大坂画壇・江戸時代のクールジャパン」、『産経新聞』(夕刊) 2013年10月5日

中谷伸生「『蘭亭会』100周年・日中の文化交渉華やかに」、『産経新聞』(夕刊) 2013年4月6日

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中谷 伸生 (NAKATANI, Nobuo)

関西大学・文学部・教授

研究者番号：90247891